

日本外科寶函創刊10週年祝賀

猪子先生閑話 (第2回)

京都帝國大學醫學部講師 藤浪修一筆記

第 3 話

盲腸周圍膿瘍ニ始メテ切開ヲ加ヘタノハ確カ明治23年頃ダツタト思フガ、蟲様突起切除ハズウト後ノコトダ。

又胃痛ニ手ヲツケタノハ何時ダツタカ、洋行(明治25年、—27年)カラ歸ツテ間モ無クダツタカラ、多分明治28年ゴロダツタラウ。

自分ニハ前ニ言ツタ様ニ教ヘテ呉レル人ハ無シ、本モ充分ニ得ラレナカツタノデ、手術ニハ非常ニ苦心シタモノダガ、ソレト同時ニ今デモ有難ク思ツテ居ルノハ、内科ニ平井、笠原兩君ガ居ラレ、外科ヲ大變ヨク理解シテ手術スル機會ヲ與ヘテ呉レタコトダ。

自分が始メテ京都ニ來タトキニハ、獨逸人ノ Scheube ト半井澄氏ガ居ラレタ。半井氏ハ東京デ Hoffmann ノ助手ヲシテ、内科學ヲ學ビ、當時トシテハ大變ニ進歩シタ醫者ダツタ。斯様ナ人々ガ居ラレタノデ、京都ニハ相當出來ル醫者モ居ルニハ居ツタガ、大部分ハ醫學ノ知識ニ乏シイモノダツタ。當時、其ノ無智ヲ示ス面白イ話ガアル。之ハ決シテ作話デハナイ、本當ニアツタコトダ。

丹波ノ或ル山村ノ樵夫ガ誤ツテ谷底ニ轉ゲ込ミ、腹ニ切株ヲ突刺シタ。ソノ樵夫ハ仲間ニ助ケラレ、マアドウニカシテ、自分ノ家マデ歸リ、スグ醫者ヲ呼ンダ。其ノ醫者ハ診察シタ舉句、ドウヤラ腹ノ中カラ蟲ガ出テ居ラシイ。然シ自分1人デハ不安心ダカラ隣村ノ某氏ニモ立會ツテモラオウトイフノデ、ソノ醫者ヲ呼ンダ。トコロガ其ノ醫者モ腹ノ中カラ蟲ガ出テ居ルノニ相異ナイト言フ。ソレデハ其ノ蟲ヲ出サウト云フ譯デ、2人シテ腸管ヲ創外ニ引バリ出シテ居ル中ニ患者ハ死ンデシマツタ。

又、コレハ京都ノ市内在住ノ人デ、尿道狹窄ノタメダツタラウ Harnretention ヲ起シタ患者ダツタガ、ソノ患者ガ小便ヲセスト云フノデ主治醫ガ立會ヲ求メテ來タ。診ルト、Harnretention ナノデ、ソノ主治醫— Katheter ヲ用ヒテ見タカドウカト尋ネタトコロ、ソノ醫者ハスマシテ如何ニモ用ヒタ。Katheter ヲ3「グレ」(Grain: 當時瓦法未ダ行ハレズ、英國ノ Apothecaries weight ガ用ヒラレテ居タモノダ) 用ヒタガ、効ハ無カツタト答ヘタ。即、此ノ醫者ハ Katheter ノ何物カラ知ラナカツタノダ。

此ノ話デ其ノ當時一部ノ醫者ノ知識ガ如何ニ乏シカツタカガ分ルダラウ。

醫者ガコンナニ知識ガナイ位ダカラ、素人ナドハ尙更ノコトダ。ダカラ手術自ラヲ求メテ來ル患者ハ勿論無ク、又イクラ手術ヲ獎メテモ駄目ダ。コチラカラ手術ヲヤラシテ呉レ

ト一所懸命ニ懇願シテヤツト1月-1回位麻醉ヲカケテヤル手術ガアツタ位ダツタ。

トコロガ、平井君(平井名譽教授)笠原君(故笠原光興教授)ガ京都-來ラレテカラハ、外科ヲ非常ニ理解サレテ居タモノダカラ、Fall サヘアレバ、ドンドン外科ノ方ヘ廻シヤウニシテモラヘタ。又ソノ爲素人ニモ外科ガ評判ニナリ患者モ段々集マリ、色々ノ手術ニ手ヲツケラレルヤウナツタ。

コンナ風ニ内科ノ助カヲ得テ自分ハ Lungenchirurgie ニ早く入り得タ。明治28年ダツタ、自分ノ岳父ガ Lungenabszess ニ罹リ平井君ニ診療シテモラツテ居ツタガ、内科ノ療法ガ奏効セズ、膿瘍ハ遂ニ胸腔ニ破レテシマツタ。ソコデ平井君ハ手術ヲシテミタラドウダト言ツテ呉レタ。然シ患者ハ自分ノ岳父ダシ肺臓外科ノ經驗ハ未ダ一度モナカツタ。始メテノ手術ヲ自分ノ岳父ニ試ミル決心ガドウシテモツカズ、見ス見ス拱手傍觀ノマ、亡クナラシテシマツタ。之ハ非常ニ残念ダツタノデ、ヨイ Fall ガアツタナラ手術ヲヤツテ見ヨウト心掛ケテ居タガ、丁度ソレカラ1年程タツテ内科カラ患者ガ廻ツテ來タ。

ソレハ若い男ダツタガ、右ノ上葉ニ結核性ノ Kaverne ガアリ、ソレニ、Mischinfektion ガ加ハツテ毎日高熱ヲ發シ衰弱シタ患者ダツタ。ガ肺ノソノ他ノ部分ハ比較的病變ガ無カツタノデ手術ヲアルコトニ決メタ。

自分ノ最初ノ手術方針ハ Kaverne ノ在リ場所ハ豫メ分ツテ居ルノデ、Kaverne ノアル所デ胸ヲ開キ、スグ Tampon ヲ施シテ、之ヲ第一次手術トシテ肋膜ノ癒着ヲ起サセ、更ニ2回目ニ Kaverne ヲ開カウト考ヘテ胸腔ヲ開イテ見タ。トコロガ既ニ肋膜ハ癒着シテ居タノデ、スグサマ Thermokauter デ、Kaverne ヲ開キ、ソノ内腔ヲ充分ニ焼灼シタ。

此ノ手術ノ成績ハ大變ニヨカツタ。患者ノ榮養状態ハ恢復スルシ、創モ Bronchialfistel ニモナラズ全治シテシマツタ。

コレハ大變ニヨイト云フ譯デ、今度ハ Kaverne ハアルガ、肺ノ diffus ニ侵サレテ居ルノ-ヤツテ見タガ、コレハ手術シテ反ツテ悪クシテシマツタ。

コンナ風ニ始メハ、ドンナモノデモ手當リ次第、適應ヲ考ヘズニ手術ヲヤツタガ、段々手術適應ヲ考ヘルヤウニナリ、又 Ovarialcyste 等ハ最初ノ内コソ自分デドンドンヤツテ居タガ、後明治21年頃婦人科ガ出來、足立健三郎君(足立捨次郎氏嚴父)ガ來ラレテカラハ、コノ婦人科的ノモノ-ハ手ヲ出サズ、他ノ新シイ手術ヲ行フヤウニシタ。

又、話ハ前後スルガ、今盛ニ平壓開胸術ガ行ハレテ居ルガ、自分ハ Überdruckapparat モ檢診ニハ必要ナコトガアルト思フ。ソレハ、矢張り内科カラ Lungenabszess トシテ外科ヘ廻サレテ來タ患者ガアツタ。成程右胸下部ハ dämpfen シテ居ルシ、其ノ部ノ呼吸音ハ弱イシ、熱型モソノ様ニ思ハレタノデ、Lungenabszess トシテ胸ヲ開イタ。トコロガ Lunge ニ丸イ丁度密柑大ノ長在性癍痕様變化ガアツタダケダ。此ノ時ハ Überdruckapparat ヲ用

ヒテ居タノデ、ソノ壓力ヲ色々ニ變ヘテ肺ヲ膨マシタリ、縮ハシタリシテミタガ、コノ方法ハ肺ノ視診觸診ニハ大變ニ具合ガヨカツタ。此ノ患者ノ場合、コノ様ニシテ觸診シタガ、ソノ變化ハ薄イ硬結ニスギナイコトガ分カツタ。

此ノ時ドウシテ氣ガツイタノカ、今ハツキリ覺エテ居ラヌガ、或ハ横隔膜ニ充血デモアツタノカ、兎ニ角横隔膜ノ下ニ病變ノアルコトヲ知り、胸ヲ閉ジ腹ヲ開イタ。ソノ結果 Leberabszess ダツタ。

コノ經驗デ自分ハ肺ノ觸診ニ就テカウ思ツテ居ル。異壓装置無シニ胸ヲ開キ、肺ヲ萎縮サセルコトハ手術ヲ加ヘルト云フ點カラ言ツテ何等異議ガ無イ。然シ肺ガ萎縮シタキリダト、視診觸診ガ完全ニ行ヘヌノハ免ガレナイダラウ。此ノ時簡單ナ異壓装置ヲ用意シテ置イテ、肺ヲ膨マセタリ、縮メタリシテ、視診觸診ヲ行ヘバ、ソノ缺點ガ補ハレル。ソウシタラ譬ヘバ腫瘍ノ周トノ關係トカ、大イサトカガ充分ニ知ルコトガ出來ルト思フ。昔ハヨク停電ヲシタモノダカラ、電氣ガ何時止マルカ分カツタモノデナイ。危クテ仕様ガナイノデ、何時デモ間ニ合フ様ニ備テ異壓装置ヲ作ラセタ。ソナ簡單ナモノデ結構ダ。

第 4 話

(之ハ某醫トノ對談ヲ筆者ガ偷ミ聞キシタモノデアアル。)

君ノ方ノ内科ノ○○君カラ胃痛トシテ紹介サレタ患者ハ自分ニトツテ大變面白カツタ。成程一寸診ルトマルキリ胃痛ダ。丁寧ニ觸レテ見ルト勿論胃ニ腫瘍ハアルガ、ソノ他横行結腸、下行結腸ニモ同様ノ腫瘍ガアル。ソノ外ニハ淋巴腺ノ腫脹モ無シ、又腹水モナイ。腫瘍ノ様子ハドウモ Krebs ラシクナイ。患者ハ○○君ニ Krebs ト診斷サレルマデハ別ニ瘡セテ來タヤウデモナカツタガ、Krebs ト斷定サレテカラ、急ニ眠レヌヤウニナリ、又食欲モ消失シテ衰弱シテ來タト言フ。又 Krebs トシタナラ、胃以外ノ腫瘍ヲソノ Metastase ト考ヘネバナラヌガ、此ノ患者ノ經過ハソナニ Metastase ガ出來ル程長クナイ。ソレデ肛門カラ検査シタガ、ソコニ立派ナ變化ガアツタ。Ampulla ノ粘膜ハ intakt ダガ、ソノ壁ハ非常ニ硬ク、ソウカト言ツテ Gewebsneubildung ガアル譯デモナイ。丁度竹ノ筒ノ中ニ指ヲ入レタヤウナモノデ、硬ク sclerosieren シテ居ルガ狹窄ハナイ。之ハ明カニ Krebs デハ無イ。ソシテ、胃ヤ結腸ニモ之ト同ジ變化ガアルノダラウトハ當然考ヘラレル。コレデ sicher Krebs デ無イコトハ分ツタガ、果シテ何物カ分ラヌ。

非常ニ nervös ノ患者デアツタガ、Probe-Laparotomie ヲ承知シタノデ開イテ見タトコロ、果シテ胃小灣、横行結腸下行結腸ニ肛門カラ診タト同様ノ變化ガアツタ。即、之等ノ壁ガソノマ、硬クナツテ居リ、ソノ漿膜面ニハ輕イ發赤ガアツタ。近處ノ淋巴腺ハ唯一二ノモノガ少シク大クナツテ居ルガ、軟カク、特別ノ變化ハナイ。都合ヨク、下行結腸ノ漿膜面ニ米粒大ノ硬イ結節ガアツタノデ、恐ラク Appendix epiploica デアラウガ、之ヲ取

ツテ腹ヲ閉ザシタ。

後デソノ結節ノ標本ヲ見セテモラツタガ、chronisch sclerosierende Entzündung ダ。然シ決シテ Tuberkulose デハ無イ。ソウスルト、ドウシテモ Lues ト考ヘナケレバナラヌ。

此ノ患者ノワッセルマン氏反應ハ陰性ダツタガ、ソレハカマハヌ。陳舊性 Lues デハ、ワッセルマン氏反應ガ出ヌコトハヨクアルコトダ。ソレデ此ノ患者ニ驅微療法ヲ行ナツタガ、不幸効無ク死ンデシマツタ。

此ノ Lues ノ現レ方ガ昔トハ大分變ツテ來タ。昔ハ散歩シテ居テモ屢々鼻ノ落チタノヤ、丘疹ノアルモノニ出クワシタガ、最近ハ頓ト見ヌヤウナツタ。コレハ Lues ガ減少シタカト云フト決シテソウデナイラシイ。

精神科ノ人ノ話デハ、最近 Hirnlues ガ大變増ヘテ來タト言ツテ居ル。之ハ患者ニモ又醫者ニモ責任ガアル。2, 3回ノ驅微療法デ上表ノ變化ガ消失スルトモウ治ツタト言ツテ、患者ハ醫者ヲ訪ネヌヤウナルシ、醫者モ強イテ治療シヨウトセヌカラ、攻撃サレ易イ上表ノ變化ハ驅微療法デ消失シテシマフガ、Hirn トカ Eingeweide トカノ要塞ノ中ニ隠レテ居ル奴ハ仲々攻メ落セヌ。トコロデ上表ノモノガ消エタト云ツテ攻撃ヲ中止スルト、後ニ要塞ノ中ノ奴ガ今度ハ顔ヲ出シテ來ル。

Eingeweidelues モ Hirnlues ト同様ニ昔ヨリモ多クナツテ來タヤウダ。オマケニ色々ノ症狀デヤツテ來ルカラ困ツタ代物ダ。Magenulcus ト今マデ簡單ニ片付ケラレタモノノ中ニハ、Lues ニ因ルト見ナサナケレバナラヌコトガアル。

曾テ Ulcus ノ Anamnese ガ無クテ急ニ Pylorus-stenose ノ症狀ヲ呈シ、開腹シテ見ルト Pylorus ガ circular 硬ク Stenose ヲ起シテ居ルモノダカラ、多分 Ulcus, Narbe ダト診斷サレタモノノ中ニハ、Lues ダツタモノガ相當アルダラウ。自分モ Haut ニ Lues ノ痕跡ガ明カニアル患者デ急ニ Pylorusstenose ノ状態ヲ呈シタモノニ、驅微療法ヲ行ツテ Stenose ガ全く消失シタ例ヲ見テ居ル。

ダカラ諸君ノウチデ原因ノ不明ナ Pylorus-stenose ガアツタナラ Therapie ノ第1階梯トシテ、驅微療法ヲ行ツテ見テハ如何。相當ニ面白イ結果ガ得ラレルダラウ。(以下續載)

第37回近畿外科學會開催日

來ル10月29日(第5日曜日)神戸市第東區楠町七丁目縣立神戸病院(市電荒田町三丁目下車)ニテ演催サレル。演題締切ハ來ル10月20日限り。當番幹事 辻廣, 鈴木正次, 藤田 登 3博士